

高等部 作業学習における支援具の工夫

～本校での作業学習の実践より～

本校の高等部には、印刷班、紙工班、手芸班、陶芸班、農園芸班、縫製班、木工班、リサイクル班の8つの作業班があります。今回は各作業班で工夫している支援具の一部を紹介します。

紙工班



紙工班では、色鮮やかな和紙と、その和紙で作ったコサージュやポチ袋等のオリジナル製品を作っています。

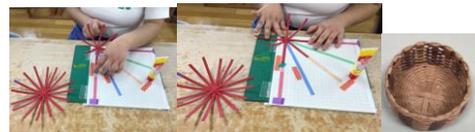
コサージュの花びらを作る作業には型紙を使います。型紙を使うことで、誰でも同じ形の花びらを作ることができます。



手芸班



手芸班では、丸や四角の色々な形のかご（バスケット）を作っています。かご作りの基礎は、底の部分を丁寧に作ることです。底の長さや大きさを正確に測ることができるよう、方眼ボードに印を付けています。印に合わせてバンドの長さを正確に揃えることができます。



陶芸班



陶芸班では、粘土製品を乾燥後、窯焼きする前にやすりをかけます。その時に割れてしまった製品は、砕いてサラサラの粉にして、水に溶いて粘土として再生します。



①砕き用支援具
鉄乳鉢で割れた製品を砕いて粉にします。この木製支援具は引く力で乳棒が動きます。



②ふるい用支援具
砕いた製品をふるってサラサラにする支援具です。

リサイクル班



リサイクル班では給食の牛乳パックをリサイクルして、油とりパットをつくっています。

木製支援具を使うと、強い力を加えずに、牛乳パックを簡単につぶすことができます。



生徒が一人で製作できるように、一人一人に合った支援具を用いて作業学習を行っています。身近な物を使って、教員がアイデアを出し合って試行錯誤を繰り返し、支援具を作っています。